

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073100309		
法人名	株式会社福岡福祉会		
事業所名	グループひまわり館		
所在地	春日市8丁目-29		
自己評価作成日	令和3年11月5日	評価結果確定日	令和3年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1	TEL:092-589-5680	HP:https://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>高齢者複合施設にてデイサービスや有料老人ホームが建物内にあり、いろいろな視点で協力し幅広いサービスができる。スタッフも入居者一人一人と密着し、個別にあった家庭的なサービスができるよう取り組んでいます。</p> <p>季節に合った行事、イベント食をおこない、季節を感じながらゆったりと過ごせる空間作りを心掛けています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループひまわり館」は平成15年に開設された1ユニットからなるグループホームである。有料老人ホーム、デイサービスが併設され、協力し幅広いサービスに取り組んでいる。夏まつり、敬老会、母の日、父の日などのイベントを行ったり、保育園に訪問したりと地域との交流にも盛んに取り組んでいる。コロナ禍の中、思うような交流ができないが、近隣の公園、公民館の公園などに散歩に行っている。室内行事で運動会を催したり、テラスで弁当を食べ、ピクニック気分を味わっている。職員は利用者一人一人の思いを大事にして、個別にあった家庭的なサービスができるよう取り組んでいる。月1回の「ひまわり便り」、ラインなどで事業所内の様子を細やかに家族に報告し、安心してもらうように取り組んでいる。安心と安らぎのある地域環境の中で、第二の故郷と思えるグループホームを目指している。今後も地域福祉の中心として活躍が期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は皆の見やすい位置に掲げ、毎朝復唱を行ない、スタッフへの意識付けを行っている。	理念は初代の管理者が作成し、リビングに掲示してある。認め合い、支え合い、安心と安らぎのある地域の中で過ごせるようにとの理念に基づき、折に触れ話し合いを行っている。毎朝復唱を行い、月1回のカンファレンス時にも話し合いを行っている。	理念の共有と実践の強化のために、今後、個人面談を行い、理念に基づいた個人目標などを立ててはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭りや文化祭、公民館のカフェにも顔を出させて頂いていたが感染症の流行にて交流できていません。、近所への散歩や買い物に感染対策しながら出かけている。	地域の夏まつり、文化祭、公民館カフェのクリスマスにも参加させてもらった。保育園などにも事業所から訪問した。自治会には入会している。現在思うような交流ができないが、近隣の公園、公民館の公園などに、感染対策をしながら散歩に出かけている。	以前、公民館カフェにも行かれていたとの事、今後、交流ができるようになった際には、公民館行事に参加させてもらったり、公民館だよりに、事業所の取り組みなどを、紹介してもらったらどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にてGH内での様子や事故防止対策、身体拘束の適正化等の公表をおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長をはじめ、民生委員数名、地域包括職員、市役所職員、入居者様家族数組集まれ、そこで出た意見は記録に残し、質疑応答、や会議の議事録は毎回公表し、サービスの向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者の家族、自治会長、民生委員、市役所職員、包括職員などが参加し、事業所の取り組み状況などを報告し、そこでの意見はサービス向上に活かしていた。現在会議の開催はできていないが、事業所から、取り組み状況などの議事録の書類を送付し意見をもらい又民生委員から情報ももらっている。グループホーム協議会での勉強会、交流会、地域密着型サービス同士の意見交換にもzoomで参加し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導も毎回参加させて頂き、介護保険上での疑問点や介護保険改正時の疑問などこまめに相談させて頂いており、事故報告もこまめに報告し、連携に取り組んでいる。	市役所で年2回集団指導があり、書類で郵送されてきたり、集まったり、毎回参加している。事故報告もこまめに報告し、連携に取り組んでいる。身体拘束の件で相談をするなど、取り組みについて積極的に相談しながら、協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回身体拘束適正化委員会にて話し合いを行っており、年2回以上社内研修として身体拘束の適正化について勉強している。また地域運営推進会議においても公表し、意見をもらい、適正化に取り組んでいる。	毎月1回身体拘束適正化委員会にて話し合いを行っており、年2回以上社内研修にて、身体拘束の適正化、虐待、虐待防止などについて勉強をしている。夜間センサーは使用しており、家族に了解をもらっている。スピーチロックについては、声かけの乱れが虐待につながるないように、毎回話し合い、言葉使いにはこまめに注意をしている。	

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての指針を作成し、虐待についての研修を行いスタッフ全員が虐待防止についての意識を常に持つようになっている。声掛けの乱れが虐待につながらないようにスタッフ同士注意をしながら虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	現在制度を利用されている方はおられないが、権利擁護や成年後見制度に関する研修には参加するようにし、内部研修も行っている。	現在制度を利用されている方はいない。必要時は法人の方へ相談し、手順を踏むことができる。成年後見制度の研修も行っている。本人の身体状況、発言、表情などを申し送り時や、カンファレンスでも話し合い、一人ひとりの現状を把握するように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関し、管理者、ケアマネ共に出席し、重要説明事項を1から丁寧に説明し、家族が充分納得されたうえで契約を行っている。改正などで重要事項説明が再度あるときはその都度説明し、同意書ももらっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やそのご家族から苦情・要望があった場合は、きちんと書類に書き留めて会議の席やスタッフ間で話し合い、改善を図り、サービスの向上に努めている。	コロナ禍の中、訪問時間は制限されるが、感染症対策を行い、面談室で15分行ってもらう。訪問の際に事業所での様子を報告し、意見、要望を伺う。運営推進会議の報告とともに用紙を入れ送付し意見、要望をもらっている。月1回の「ひまわり便り」には、イベントの様子の写真を送ったり、電話連絡もこまめに行い、意見、要望を聞き取り、運営に反映させている。	事業者から送られてくる資料が充実しており、事業者内での生活の様子がよくわかる。事細かに連絡をしてもらい本人の様子が手に取るようにわかる。運営推進会議の報告もあり、事業所の取り組み方もよくわかるなど様々な意見が寄せられており、利用者、家族の意見を運営に反映させている事がよく表れており、今後もサービスの向上に努められるよう期待している。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や委員会の話し合いの中でスタッフの意見を聞き、運営の質の向上に努めている。	ミーティングは月1回あり、意見も出しやすく、提案を聞く機会も設けてくれ、相談しやすい。活発に意見を出し合い、意見や提案をケアに反映させてくれる。研修に行く時はシフトの中で行ける。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は働きやすい職場改革を目標に掲げ、福利厚生や昇給、処遇改善加算の取得を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢を問わず募集や採用にあっている。また、現場スタッフでも係や入居者様担当を決め、責任を持った仕事を促している。	年齢は幅広く、新卒の職員もいる。男女比もバランスがよく、お互いに得意な分野を発揮し、生き生きとして勤務している。休憩時間、休憩場所の確保もできる。体格の良い職員は、入浴時には安心してもらっている。研修案内もあり自己研鑽に励む機会を持ち、資格取得に励んでおり、相談にのってもらう。	

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修や外部研修等で人権について学び、それに連なる虐待防止、身体拘束、接遇などスタッフの意識向上の啓発に取り組んでいる。また、新卒採用者は必ず人権についての研修を行っている。	管理者が人権について外研修を受け、内部研修を行っている。それに連なる内部研修として、身体拘束、虐待防止、接遇マナー、言葉づかい、などの研修を、担当者を決め行っている。	講師派遣などを社会福祉協議会にたのんでみたり、包括支援センターなどから、DVDなどを借りてみたらどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会に加盟しており、そちらの研修や勉強会に参加するようにしている。また、外部研修にはスタッフが研修に行けるようなシフト作りを行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での勉強会や交流会、地域密着型サービス同士の話し合いや意見交換会に参加するようにしている。感染流行時期はzoomにて参加行う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前の段階で本人様との面談を行い、本人様の要望や不安に思われている事等を話し合い、入居後もこまめな声掛けを行いスタッフとも信頼関係が築けるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される以前の段階でご家族様とも面談を行い、要望や不安なことを話し合っている。また、入居者様の好きだったことや喜びそうなことなど事前にご家族様からも教えてもらっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りご家族や入居様が必要としているサービスが受けれるよう、必要な時は市役所に相談しながら対応できるように取り組んでいる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症があってもその人の人格や能力を尊重し、その人の出来ることをスタッフと一緒にやるよう心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時は状態の報告や相談をこまめに行っている。遠方のご家族様や来訪の難しいご家族様にはラインや電話での相談、報告を行っている。		

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に向くことはできていないが会話の中で馴染みのある場所や人の話をするようにしている。	昔お世話になった方が見えたり、友人から年賀状が届くこともある。息子さんが花を届けてくれる。馴染みの場所に行くことは困難だが、会話の中で馴染みの場所や人の話をするようにしている。ユーチューブで民謡、歌謡曲を聞いたり、家庭菜園、花壇の水やりを行うなど、趣味活動を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを多く持てるようなレクレーションを考えたり、スタッフが間に入り会話が広がるようにしている。また、入居者様同士の人間関係やこだわりを考慮し、その人が過ごしやすい所で過ごせるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様がよければいつでも連絡や相談をして頂けるよう声掛けしている。退去後にお亡くなりになられても家族とも連絡をとり、お通夜や葬儀にも出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の性格、希望、生活習慣を尊重し、意向の把握に努めている。意思表示が難しい方は表情や様子観察を行ないながら本人様が笑顔になれるよう支援している。	入居時は自宅、病院などに管理者、ケアマネジャーが訪問する。利用者、家族からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、要望、不安な事などを聞き取る。意思を伝える事が難しい利用者には表情、仕草、何気ない言葉から思いをくみ取るようにしている。1~2か月の暫定プランを立てる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人様、ご家族様から生活歴、生活環境などの聞き取りを行い、本人様にあった対応をするよう心掛けている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人介護記録に本人様がされたこと、身体状況、発言、表情などなるべく詳しく記入するようにし、申し送り時やカンファレンスでも話し合い、一人一人の現状を把握する様努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでスタッフと話し合いを行い、その意見をまとめて介護計画を作成している。また、本人様の楽しみや身体状況に応じて出来ること、ご家族様の要望やこれまでの習慣などを取り入れるようにしている。	ケアプランに紐付きケアプラン実行表があり、日々のケアの実践、結果、気付きが記入されている。職員は担当を2名持っている。カンファレンスにおいて職員全員で情報を共有し、話し合い変化を見逃さないようにモニタリングを行う。利用者の楽しみや身体状況に応じてできる事、家族の要望、これまでの習慣などを取り入れ、医師、看護師などからの意見も反映させ現状に即した介護計画をチームで作成している。	

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録に記入の際、身体状況や一日の状況だけを書くのではなく、その人の発言、表情、どんな様子が等特に気付いたことは赤ペンで記入し、申し送り、カンファレンスで話し合い、介護計画に取り入れている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の置かれている状況が変わった場合は再度カンファレンスを行い、その時々でのニーズに対しての支援やサービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は感染症の流行により地域資源との協働はできていない状態です。また、時期がきたら地域との交流が持てるよう支援して行きたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居の際本人、家族の希望にて今までのかかりつけ医か施設の協力医療機関にするのか選んで頂いている。	かかりつけ医は入居の際に、利用者、家族の希望にて、今までのかかりつけ医か提携医か選んでもらう。かかりつけ医、提携医の訪問があり、提携医及び看護師職員は24時間対応が可能である。歯科医師の訪問も週1回あり、ほとんど全員が歯科医師、歯科衛生士の受診を受けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム専属の看護師がおり、入居者様の健康管理や薬の管理、特変時の主治医への連絡や処置を主にしてもらっている。また、24時間連携体制をとっており、専用の携帯電話を持っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はスタッフで定期的に面会へ行き、本人様の健康状態やこれからのことを主治医や担当看護師とお話し、ご家族様とも相談しながら話をすすめている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を示し、同意を得ている。また入居者様の状況が変わられた際も、再度ご家族様や医師と話し合い、終末期のありかたについて共有できるように取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた看取りの指針を示し、同意書、事前確認書をいただいている。利用者の状況が変わられた際には、再度家族、医師などと話し合い、終末期のあり方について共有できるように取り組んでいる。昨年は1名様、今年10月には2名様の看取りを行った。ターミナルケア、看取りについての研修も行っており、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生の訓練、窒息時の初期動作の訓練、ノロウイルス嘔吐物処理の訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の防災訓練を行い、そのうち2回は入居者様参加型の避難訓練を行っている。また、訓練の様子や質疑応答等地域運営推進会議にて公表している。	年4回の防災訓練を行い、そのうち2回は入居者参加型の避難訓練を行っている。通報訓練を行い、1回は夜間想定で行う。建物設備会社の方から、消火器の使用方法を勉強。7月には緊急通報システムを押した時、職員がどのように動くかの訓練を行った。11月には避難の仕方の実施訓練を行う。災害時には避難場所と指定されており、市と協定を結んでいる。地域の防災訓練には管理者が参加した。備蓄は米、水、缶詰めなどを用意している。訓練の様子は運営推進会議にて公表している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には常に敬語、丁寧語で声掛けするように心がけている。また、個人情報を他の入居者様に聞こえる様に話さない等配慮するようにしている。	接遇マナー、言葉遣い、個人情報保護などについて研修を行っている。スピーチロックは、気が付いた時に注意をしている。写真などの同意書も作成している。日常生活の中で本人の思いを最優先し自己決定できるように支援し、表情、動きなどから、本人の立場に立って考え、思いや希望をくみ取っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る入居者様はその意思を最優先し、自己決定出来る様に支援している。意思表示の難しい入居者様に対しては表情や動きなどを観察し、本人の立場にたって思いや希望を察知している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まってはいるがその人の体調やライフスタイルを尊重し、本人様の意思を最優先しするよう心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理美容があり、本人様の希望に合った髪型にされている。服もご自身の希望がある場合はそれを優先し、行事やイベントごとでは化粧やアクセサリー等本人様がつけていけるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の身体能力や状況に合わせて、テーブル拭きや食器拭き、食器洗いなど職員と一緒にやっている。	食材は生活協同組合の宅配により、献立は調理専門学校栄養士が作成。献立に基づき、職員が交代で調理をする。カロリー計算もされ彩りよく、食事を楽しんでいる。誕生日にはケーキの宅配を頼む。コロナ禍以前はデイサービスのワゴン車で外食に行く事があった。今は、事業所のテラスで弁当を食べ、ピクニック気分を味わったりしている。身体状況によりテーブル拭き、食器拭きなどを職員と一緒にやっている。	

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を基準にGHの入居者に合わせた献立表を作成している。また、食事量、水分量は毎日チェックし、その人の体調や食事形態に合った食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、自分でできる方は自分で行ってもらっている。うまくできない方はスタッフの介助にて行っており義歯は毎日ポリドントに漬けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し、なるべく失敗がないようトイレ誘導、声掛けを行っている。自分で訴えがある方はその都度トイレ誘導を行い、自力排尿、排便が難しいときは腹圧をかけたり、なるべくトイレで排出できるように支援している。	排泄チェック表があり、排泄パターンを把握し又落ち着かない様子が見られた時は、声かけ誘導をする。声かけにより、様子を見ながら、パッドが中から小に変更できた。朝は水分補給後、体操、ストレッチなどを行う。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便があるよう毎日の食事に食物繊維、果物、乳製品を取り入れたりトイレ誘導時の声掛けや腹圧をかけ、自然排便があるよう支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度スケジュールは設定しているが、日常的に入浴の準備をし、週2回以上は入浴できるよう希望や状況、体調等に対応している。また、タイミングや声掛けを工夫し、無理強いとにならないよう工夫している。	週2回10:00から16:00の間に入浴の時間を設けている。希望や状況、体調などにより、対応しており、個々にそった支援をしている。入浴時は皮膚観察を行い、必要時には看護師、医師に相談する。個浴であり、入浴の時間は大事なコミュニケーションの時としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体力や習慣、体調や本人様の希望にて休息して頂いたり、夜間の消灯のタイミングや寝る前の音楽やテレビなどその人の希望に応じるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬リストをスタッフルームに置いており、いつでも見れる様にしている。また、分からない事があれば看護師や係りつけ医に連絡をとっている。薬の変更があればその後の身体状況をこまめに記録に取り、病院へも報告している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、その方に合った習慣や役割をもってもらえるようにレクやお手伝い、行事、食事の支援をしている。		

R3.11自己外部評価(ひまわり館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出たいと希望される入居者様がおられない状態ではあるが近所の散歩には声をかけて出かけている。今は車に乗り込める方も少なく、高齢と体力の低下で本格的な外出支援が困難になってきている。	デイサービスのワゴン車で紅葉、コスモスなどを見に行った事があるが、高齢と体力低下で車への乗り降りも困難になっている。今はコロナ禍の中、外出は困難になっているが、近隣のコンビニエンスストアに徒歩又は車いすで行ったり、近隣の公園、公民館の公園などには、感染症対策を行い、なるべく外の空気に触れるようにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の個人での所持はしてもらってはいないが本人様の希望が強い場合は少額の札をサイフに入れてもらい持ち歩けるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があればGHの携帯電話にてご家族様とお話して頂いたり、ビデオ通話をされている。また、ご家族様からグループホームにかけて頂き、本人様に取り次ぎお話してもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝は毎日の換気と日光を取り入れている。各共用部にもエアコンがあり、季節に応じた温度設定で過ごして頂いている。	朝は毎日、換気と日光を取り入れ、ラジオ体操を行う。利用者と一緒に作製した折り鶴による、見事な赤富士が、飾られている。リビングにはソファ、テーブルが置かれ、暖かい日差しの中、ゆっくりと午後のひと時を過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルを置いており入居者様が座り慣れた場所や馴染みの顔ぶれが集まるような空間作りを心掛けている。食事の席も入居者同士がトラブルにならないような場所に座られるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様や本人とお話し、今まで使われていたものや家具、写真、本などお持ちいただけよう相談している。刃物、火器類は持ち込まない様にしている。	各部屋に洗面所、トイレがある。仏壇を置かれたり、家族の写真などに囲まれ、安心して過ごされている。使い慣れた家具、好みの本などを飾り、それぞれ趣のあるオシャレな部屋にあつらえている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部のリビングや廊下、トイレや風呂場に手すりを設置している。各居室にもトイレがあり、車椅子のかたでも安全に利用できるよう手すりを設置し安全な環境作りを心掛けている。		